

中央大学学員会 中大技術士会支部

ニュースレターvol.56

会員の皆様へ

今年ロシアのウクライナへの武力侵攻に始まり、新型コロナウイルスの蔓延が今だに収束しないなか、先日元総理大臣がテロ行為で暗殺されるという、我が国では考えられないような事件が発生しました。民主主義を根本から破壊する蛮行に対しては、決して許すことはできませんが、「因果応報」という言葉があります。元総理が靈感商法・高額献金の要求という反社会的なカルトと目されている教団の関連団体にビデオテープでエールを送らなかったならば、あるいはこのような悲惨なことは起こらなかったのではないのでしょうか。元総理のご冥福を祈るばかりです。

ここにきて昨年開催された東京オリンピックの金銭スキャンダルが露呈されています。まさに負のレガシーが懸念される事態を招いており、一体先のオリンピックは何だったのでしょうか？オリンピック精神を全く無視し、単なる金儲けのために食べ物にする由々しき事態となっています。さらにメイン会場となった新国立競技場の隣の明治神宮外苑の歴史的樹木約 900 本が付近を含めた再開発のために伐採される危機が生じております。これを阻止すべくユネスコの我が国の諮問機関である一般社団法人日本イコモス国内委員会の主査を務めているわが中央大学研究開発機構の石川機構教授が、同委員長と連名で東京都知事宛てに伐採をたった 2 本に画的に縮小する提案を提出しております。強大な資本の論理（金儲け）に対して東京のど真ん中に位置する歴史的に貴重なグリーンインフラを維持できるかまさに正念場に差し掛かっています。中大技術士会としてもいくらかでも石川先生のお力になればと考えております。

本会では会員の皆様からの投稿をお待ちしております。中大技術士会のホームページ (<http://www.chuo-u-pej.org/>) から投稿用フォームをダウンロードして、投稿してください。

内 容	ページ
巻頭言	2 ページ
■ 「物思いに耽る秋の季節の到来で、徒然なるままの我思い」： 中大技術士会幹事長 國島 旭幹（機械部門／総合技術監理部門）	2 ページ
活動報告	3 ページ
■ 幹事会報告	3 ページ
■ 広報部会活動報告	4 ページ
■ 大学支援部会活動報告	4 ページ
活動計画	4 ページ
■ 企画部会活動計画	4 ページ
■ 大学支援部会活動計画	5 ページ
リレーエッセイ	5 ページ
■ 「川の流れに魅せられて」：藤本真紀さん（建設部門）	5 ページ
投稿エッセイ	7 ページ
■ ブチ研究「我が国の公園の父」本多静六林学博士について 蛇足のエッセイ「最近憂いていること」 中大技術士会幹事 山下三雄（建設部門／総合技術監理部門）	7 ページ

■ 「物思いに耽る秋の季節の到来で、徒然なるままの我思い」:

中大技術士会 幹事長 國島 旭 (機械部門/総合技術監理部門)

2022 年も 10 月に入ると、ようやく、猛暑だった夏から解放され、今度は、台風が心配になる季節へと移行し、色々と物思いに耽(ふけ)る秋の季節の到来である。

地球温暖化、コロナ感染症、ロシアのウクライナ軍事進攻、安倍元首相の銃撃暗殺事件など、何かがおかしい?と感じているのは私の杞憂だろうか?

地球温暖化は、CO₂ 温室効果ガスの影響が大きい、ここに来て、毎年の様に何十年に一度の大雨が日本各地だけでなく世界の何処かで発生し、地球

規模での温暖化がより一層、身近に感じられ、大雨と同じ危険水域に入ってきた。エリザベス女王が崩御された英国では、今夏、観測史上初の 40℃超えを記録し、逆に、雨が降らず川や湖の底が見える程に干上がった。中国、欧州、米国の異常気象も同様に深刻である。日本では海水面温度の上昇で前線が北上し、今後、東北、北海道での大雨災害が、益々、心配になってくる。

我々の科学技術で何とかならないだろうか? 自動車産業は電制化や自動化が進む中、夢の車は走れば走る程、空気が綺麗になり、有害な排出ガスを出さないだけでなく、CO₂ 濃度も下げて地球温暖化を防止してくれる夢の車が登場しないだろうか!?

コロナ感染症では、オミクロン株の様にウィルスの変異株と人類との知恵比べてある。WHO が唯一、根絶を宣言できたのは天然痘のウィルスである。しかし、今年はコロナと共に天然痘に似た「サル痘」の流行が発表された。人類もまだまだ無知の自覚が必要だと感じさせる出来事だ。

ロシアのウクライナ進行では、仕掛けたロシアのプーチンが悪いが、大学時代の恩師から「冷え冷えとする近代化の防止」、「人の心の痛みの分かる人間になれ」、そして、「人を叱る時は逃げ道を用意しておけ」と教わった。西側の欧米は経済面でロシアの天然資源などの利用に腐心し、ロシアの真の民主化、自由化には目を背けた結果、追い込まれたプーチンが暴走しウクライナ戦争として跳ね返ってきた。ロシアの次に中国が暴走しない事を願うばかりだ。

安倍元首相の銃撃暗殺事件の背景は、信教の自由から宗教法人への優遇税制を悪用した旧統一教会の霊感商法による高額かつ違法な献金集めであろう。昔から尊敬される職業として、医師、弁護士、僧侶が挙げられるが、医師は病から人を救い、弁護士は争いから人を救い、僧侶は悩みから人を救う、と教えられた。だから、人々から尊敬され、優遇される職業だった筈である。

「仏像(木仏)彫って魂入れず」、見た目は同じであっても魂が入っていなければ何ら意味を持たない。技術者倫理にも関連するが、倫理には、予防倫理と志向倫理が有る。

予防倫理では、公益性が高く、また、社会的地位の高い人の悪事行為の予防として、例えば、現在、東京五輪の組織委員会の理事は「みなし公務員」でありながら贈収賄事件の容疑者となり大きな社会問題となった。地位などに関係なく何人も予防倫理の教育、自覚などが必要になる。

志向倫理では、例えば、不正など無い公平で活力の満ちた理想的な社会の実現に向けて、自ら倫理的に模範となる行動を示しつつ、社会活動を推進していく積極性などが必要になってくる。

SDGs で持続可能な社会の実現に向けて、また、継続的改善の品質マネジメントシステムと同様に、人間の品質である品格を向上させる人作りのプロセスこそ、今後、益々、重要になると、物思いに耽る秋の夜の徒然なるままの我思いを書き留めて失礼させていただきます。



■ 幹事会報告

行事名	開催日程	活動概要
2022年度 第2回幹事会 (ハイブリッド 会議；対面＋ WEB会議)	7月29日(金) 18:00～19:30	<p>(1) 各部会報告</p> <p>・総務部会報告</p> <p>①2023年度の中央大学の都心キャンパス移転 →新キャンパス構想の紹介(法学部の都心移転など)</p> <p>②2023年度以降の「キャリアデザインと倫理」への派遣講師7→3名の削減について →8/末までに土木や上下水道出身の3名の講師の選考を行い、専門分野における「キャリアデザインと倫理」と共に技術士制度の説明などを考慮した講義内容を検討する。</p> <p>③中央大学の学員時報に昨年度の技術士第一次試験の試験結果が掲載される。 →中大技術士会から投稿した昨年度の技術士第一次試験の結果(在学生の合格者数で中央大学は全国二位)が、学員時報の一面の紙面の半分を占める記事として大きく掲載された。今後の中大技術士会の活動の認知&普及活動の一環です。</p> <p>④学員会に「支部活動支援費申請書」、「進路(就職)相談会補助金申請書」を提出 →上記2件の申請で学員会から計20万円の支援金+補助金が支給される予定です。</p> <p>⑤第31回中央大学ホームカミングデーのオンライン開催と出店中止の案内 →2022/11/27(日)予定の第31回中央大学ホームカミングデーはオンライン開催とし、模擬店の出店等の中止の書面連絡がありました。</p> <p>・企画部会報告</p> <p>①総会は10月中の開催を目標にして資料準備などを進める。</p> <p>②法曹会との交歓会は、対面会議+終了後の交流会が基本であり、今後のコロナ感染状況により判断する。</p> <p>③理工白門祭は、現下のコロナ感染状況から学生向けに制限&縮小された開催になります。</p> <p>・広報部会報告</p> <p>①ニュースレターNo.55の発行など</p> <p>・大学支援部会報告</p> <p>①学生向けガイダンスのオンディマンド動画のLink先、アクセス数の確認を行う。</p> <p>②技術士一次試験の模擬試験の開催に向けて準備を進める。オンライン動画の内容説明、及び、「第一次試験合格者の授与式(仮称)」の概要説明</p> <p>(2) 各学科との協力事項報告</p> <p>・「キャリアデザインと倫理」の講義</p> <p>①6/1～7/13の計7回の中大技術士会からの派遣講師による「キャリアデザインと倫理」の講義が無事に終了しました。御協力ありがとうございました。</p> <p>・石川教授(研究開発機構 機構教授)との連携</p> <p>①「グリーンインフラ勉強会」のキックオフミーティ</p>

		<p>ングの紹介（神宮外苑の再開発&銀杏並木の伐採、今後の中大理工の後楽園キャンパスの「グリーンインフラ化」など）。</p> <p>・その他</p> <p>① 中大技術士会の支部旗の所在の確認を行う。</p> <p>② 日本技術士会の中央大学 OB の専務理事の齊藤氏が、今後、退任される旨の連絡がありました。</p>
--	--	---

■ 広報部会活動報告

項目	内容
サーバー運営	特になし
ニュースレターの発行	ニュースレターvol.56 の作成、発行
HP新規掲載	ニュースレターvol.55 の掲載
その他	<p>第3回理工ホームカミングデー10月29日に開催予定との連絡あり。詳細は下記 URL を参照してください。</p> <p>https://www.chuo-u.ac.jp/academics/faculties/science/event/2022/08/61800/</p>
会員の皆様へのお願い	<p>① 就職、転勤、転職、転居等により連絡先が変更になった場合、幹事会宛てにご一報をお願いします。詳細はホームページ「入会のご案内」をご参照ください。連絡先：toiawase@chuo-u-pej.org</p> <p>② ニュースレターへの会員の皆様らの投稿をお待ちしています。近況報告、受験体験談など、何でも構いません。皆さんからの積極的な応募をお待ちします。</p> <p>③ 会員相互の交流を深めることを目的に比較的気楽に投稿できる「趣味」「近況報告」を共通テーマとしたリレーエッセイを(Vol.36)より開始しました。執筆依頼がありましたら、投稿をお願いします。</p>

■ 大学支援部会活動報告

項目	内容
技術士第一次試験に係る模擬試験の準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬試験問題の準備、学生への告知など実施 ・ 一次試験合格者数全国大学 No.1（在校生）に向けたプロジェクトを大学支援部会主催で発足。中大技術士会会員から広く参画を募集中。（ご賛同頂ける方は、大学支援部会：国友まで）

活動計画

■ 企画部会活動計画

行事	日程	内容
中大技術士会 R4 第1回講演会 (例年、定時総会時の特別講演会として開催)	未定	坂林会長による技術士第一次試験及び第二次試験に向けた受験対策の講演を計画しています。
ホームカミングデー	11月27日(日)	今年もオンラインで開催される予定ですが、詳細は未定です。
法曹会との交歓会	未定	次回の開催は中大技術士会が幹事担当ですが、新型コロナウイルスの影響で開催を見合わせています。開催時期については、今後の状況を見て検討を行っていきます。

■ 大学支援部会活動計画

行事	日程	内容
技術士第一次試験に係る模擬試験	11月19日(土)	今年是对面式での模擬試験を行う。基礎科目、適性科目、専門科目の模擬試験に加え、新たな試みとして、学生の苦手科目である「適性科目」の問題解説講義も実施する。
第2回グリーンインフラ勉強会	未定(石川教授の神宮外苑の樹木の伐採に関する日本イコモスの東京都への提案提出後)	東京都への提案内容について

リレーエッセイ

藤本真紀さんからのリレーエッセイをお届けします。

■ 「川の流に魅せられて」：藤本 真紀さん(建設部門)

平成12年に大学院土木工学専攻博士前期課程を修め、平成12年4月より国土交通省北陸地方整備局(採用当時は建設省北陸地方建設局)に勤務しております。採用以来22年間、一貫して河川・ダム畑を歩んできました。平成30・令和元年度の2年間は農水省に出向しましたが、その間も土地改良部局の水資源開発担当として河川やダムに携わりました。

現在は、地元富山県を流れる一級水系庄川の国土交通大臣管理区間を管理する大門出張所に勤務し、日々変化する庄川の流れを見つめています。



1. 中大時代の思い出

平成6年に理工学部土木工学科に入学し、後楽園キャンパスに通いました。

受験前日に生まれて初めて富山の片田舎から母と上京したのですが、水道橋駅で下車して後楽園キャンパス周辺を下見するはずが、上越新幹線(当時は北陸新幹線がなかった)を降りて東京駅から乗ったのは「総武線」ではなく「中央線」。当然、水道橋駅は素通りし、遠ざかる水道橋駅を見送りながら母と二人で焦ったのが今となっては良い思い出です。(その後、二人で変な時間にヤケ食いたため翌日の試験では早くトイレに行きたくて驚くべき集中力を発揮し、メイク・ミラクルで合格証書を手にしたことも良い思い出です……。中大受験は私にとって身の丈以上のチャレンジでした。)

入学した平成6年はカリキュラムが改変された年で、この年を境に、土木工学科の女子学生が増加したり、留年生が減るとともに大学院推薦者が大幅増加したと記憶しています。この頃、山田先生主催の公務員講座が始まり、同級生からも数名国家公務員Ⅰ種に合格しました。私も一応講座で学びましたが……。力及ばず、Ⅱ種採用となりました。国交省入省後、いわゆるキャリア官僚の方々の激務を目に、やはり限られた時間内でⅠ種試験の難問を解ける実力がないとキャリア官僚は務まらないな。と妙に納得しました。

大学院では川原先生のもとで応用力学を研究しました。学部生時代、川原先生の授業で構造力学計算が魔法のように解けるおもしろさを感じて川原研を志望しましたが、研究室では主に有限要素法を用いた海岸の流れのシミュレーションについて改良研究を行い、授業とはまた違ったおもしろさがありました。先生は海外の大学や研究者と交流が盛んで、中国・韓国・台湾での卒論

発表や、M1 の時のアルゼンチンでの学会発表が特に印象に残っています。ちなみに学会発表後の質疑応答で、英語で答えられず先生に答えていただいていたことが重大な反省点です。

キャンパスライフを大いに満喫し、無事に卒業・修了・就職しましたが、正直なところ、「よく勉強して土木工学という学問が身についた」とは言い難く、特に近年になってから、学生時代にもっと真面目に勉強しておくべきだったと後悔しています。

2. 川との出逢い

母の実家が新潟県なのですが、すぐそばに一級水系阿賀野川と支川の合流点があり、子供の頃はいとこ達とよくその水門で遊んでいました。水面の変化が面白く、一人で行って、飽きずに川の流れを見つめていたこともありました。母の帰省の際、車窓から見える川を眺めていて、新潟県を流れる信濃川・阿賀野川のゆったりとした流れに対し、富山県内は黒部川や常願寺川をはじめ、神通川、庄川など、水面が白く波立っているような川ばかり。その違いを不思議に思った時、初めて川のおもしろさに気づきました。

北陸地建（当時）の採用面接では、地建業務のうち興味のある分野（川か？道路か？）を尋ねられ、緊張状態の中、阿賀野川のゆったりとした流れが脳裏に思い浮かび、迷わず「川です」と答えたところ、最初の勤務地は晴れて母の郷里の阿賀野川工事事務所（当時）となり、そこから私の河川・ダム畑人生がスタートしました。ちなみに山田先生が阿賀野川のリバーカウンセラーでした。



双子と庄川へ

採用後は、業務上の【川】は治水対策が最たるものであり、採用後はダム建設予定地における流域住民の反対やダム事業の撤退、未曾有の大洪水による破堤と浸水被害、災害復旧事業の立ち上げなど厳しい局面を一担当者として経験し、自然環境の恐ろしさ、災害発生時の悲惨さ、自然環境を相手に事業を展開させる難しさを実感してきました。

決してゆったりとした川の流ればかりを眺めてばかりいられる仕事ではないですが、平常時のおおらかで包み込んでくれるような優しい表情の川、たくさんの生命を育む川には、畏怖の念を持ちつつ、今も心を癒やされています。

3. 技術士取得

同じく河川畑を歩む同僚と結婚し、下の子が双子だったことがきっかけとなり、郷里の富山で子育てすることに決め、夫とともに実家に入りました。

これにより、市内にある利賀ダム工事事務所での勤務が多くなりました。河川では既に先人の知恵により堤防や護岸などはある程度整備され、業務の中心は洪水時の対応や施設の維持管理、利水などソフト対策などでしたが、建設ダムではダム完成までの工程管理や構造物の設計・施工監理が中心で、事業のマネジメントの必要性を実感しました。また、設計・検討業務を受注するコンサルタントの管理技術者と仕事をする中で、技術士の資格が受注条件となっている彼らと対等に話すためには発注者にも同等の技術力がなければならぬと感じ、公務員こそ技術士の資格を持つべきだと考えるようになりました。

一度目の受検では何の戦略もなく、準備不足で歯が立ちませんでした。農水省への出向中、通勤の高速バス移動中の時間が試験勉強する最後のチャンス！と、絶対合格することを目標に私史上初の綿密な学習計画を立て、元職場の先輩のご協力も得て、なんとかR元年度に合格することができました。

技術士としての実績はまだ乏しいですが、業務の中で、課題解決に向けた論理的な組み立てができるようになってきたのではないかと自己評価しています。

4. これから

「四十にして惑わず」という孔子の言葉がありますが、年齢 40 を遙かに超えてもなお惑ってばかりです。今年の 4 月に管理職となりましたが、一担当者から立場が変わり、これまで見えなかったものが見えてきて、自分がこれからどのように仕事に取り組むべきか、どのように生きていくか、全く違った視点から改めて考えさせられています。一日一日を大切に、そして支えてくれる周囲の方々とのご縁を大切に、日々精進していきたくと思います。

「次は、高知在住の同級生、野中のぞみさんにバトンタッチします！」

投稿エッセイ

中大技術士会幹事の山下さんからの投稿エッセイをお届けします。

■ 「我が国の公園の父」本多静六林学博士について

大技術士会幹事 山下 三雄（建設部門・総合技術監理部門）

ある哲人が埼玉県にいらしたときの講演で、埼玉県が生んだ本多博士のことが紹介されている新聞記事が載っていました。私も川口市に生まれ現在も住んでおり、丁度グリーンインフラに興味を持ち始めていた頃で、これまで全く知らなかった博士のことを調べることにいたしました。

博士は慶応 2 年に埼玉県菖蒲町（現：久喜市）に生まれ苦学の末に東京山林学校（現：東京大学農学部）に進学し、林学を学ぶためにドイツに留学されました。ドイツで経済学ドクトルを取得し、帰国後母校の教授として教鞭をとられ、我が国初の林学博士となり、明治天皇・皇后を祀った明治神宮、我が国初の西洋式公園でその後に多大な影響を及ぼした日比谷公園をはじめ我が国の著名な公園を 50 箇所以上設計されました。（写真 1 参照）また国立公園の発足にも尽力されました。さらにわが埼玉県が誇るあまりにも有名な「我が国の資本主義の父」とも称されている渋沢栄一翁とも親交を持たれ、共に最初の経済界の埼玉県人会の設立に加わりました。留学先では後の内務大臣になられた後藤新平翁とも出会い、その後「後藤の大風呂敷」と言われた関東大震災の東京の復興を目指した都市計画の原案を作成しました。残念ながら当時の国力から大幅に縮小されてしまいましたが（予算 41 億円→13 億円）、これが実行されていれば現在の東京も違った形になっていたものと思われます。渋沢翁からは経済界に、後藤翁からは政界にそれぞれ博士の潜在能力を乞われて転出を勧められましたが、いずれも固辞されて生涯一研究者であることを全うされました。



現在神宮外苑の再開発に伴い貴重な樹木約 900 本が伐採される危機が生じていますが、明治時代に日比谷通りの拡張に伴い樹齢 300 年の大銀杏が伐採される危機にあたり、これを惜しんだ博士は伐採の中止を懇願し自ら移植を引き受けました。専門家の植木職人さえ無理だと考えたことを自分の首をかけても成功させるとして見事成し遂げられました。現在も日比谷公園内のレストラン「松本楼」の前に園内一の大木として「首掛け銀杏」の名で残されています。（写真 2 参照）

本多博士は 300 冊も優に超える著作を著し、そのなかには「1/4 天引き貯蓄」等をはじめとする多くの人生訓があります。私が特に感銘を受けたのは以下の博士のご金言です。

「まずはウデの人間（技術屋）になりなさい。そのうえでアタマの人間（事務屋）の勉強もしな

さい。技術屋が事務屋になるのは容易である。技術屋としてつまづくのは事務屋の勉強をしていないからであることが多い。」

私も母校の理工学部で年に1度だけゲストスピーカーとして、「技術者倫理」の講義を担当させていただいて好き勝手なことを言っておりますが、まさに偶然にも博士のお考えと全く同じことをレクチャーしております。すなわち技術のことを学ぶのは理工学部の学生の本分ではあるが、技術のことしかわからない「技術屋バカ」になるのではなく、法律（民法/会社法/知的財産法等）・経済・経営（マーケティング等）・金融・会計（原価/損益計算・キャッシュフロー等）等の文科系の勉強も広く浅く勉強することを勧めています。会社のトップクラスになるにはこれらの基礎知識が必須です。理科系の方が文科系の勉強をするハードルは比較的到低く、その反対は非常な困難を伴います。文科系の方に微分方程式を理解できる人はあまりいません。学問の仕組みが根本的に異なり、理科系の学問は階層的に組み立てられており、基礎をしっかり勉強しないとその先に進めません。一般的に文科系の学問はほぼどこからでも途中から入っていくことができます。以上のことは残念ながらわが中大理工学部合格したにも拘わらず理科大に進み、現在ソニーの技術研究所で車の自動運転の研究生生活をしているわが愚息にも話していますが、全く親の言うことに耳を傾けません。そのうちにわかる時が来るのではないかと密に思っています。

本多博士のことを勉強している間に博士はわが中央大学とも深いかわりがあることを発見しました。中央法学院（現：中央大学法学部）を卒業され、その後検事総長・大審院院長・司法大臣さらに貴族院議員を歴任された第10代学長の林頼三郎先生（この方も埼玉県忍町（現：行田市）の出身）も本多博士とご懇意であられ、博士の書物の序文に推薦の言葉を寄稿されています。また第6代学会会長の西保先生も博士の書生として「人生即努力、努力即幸福」という博士のモットーの努力主義の薫陶を受け、その後の人生を決定づけたと回想されています。ちなみに博士の奥様は我が国の女性で医師資格を取得した第4号で、第1号は埼玉県妻沼町（現：熊谷市）が生んだ荻野吟子女史です。

また一方で博士は「蓄財の神様」とも称されており巨万の富を築きましたが、所有していた秩父地方の山林をほとんどすべて埼玉県に寄付し、その果実でもって「本多奨学育英会財団」が設立されました。まさに「子孫に美田を残さず」を実行されました。東松山市の西に位置する「武蔵嵐山（らんざん）」の地名は、博士がその峡谷の景観の美しさが京都の嵐山に似ているところから自ら命名したものです。

わが中央大学も来年法学部がお隣の茗荷谷に移転しますが、今後理工学部もますます文科系の学部と相互交流を深め、一通りある程度の文科系の素養と語学力の堪能な国際感覚豊かな技術者（ジェネラル&グローバルマナージャー）を育てていただきたいと願っております。私も「70の手習い」ではありませんが、生涯最後の学習対象としてグリーンインフラにチャレンジしていくつもりです。技術士試験の学生への啓蒙について絶大なご協力をいただいている、中央大学研究開発機構の石川機構教授のご指導のもと、「グリーンインフラ勉強会」を立ち上げて、将来的には後楽園校舎第1号館の再築に伴うグリーンインフラの確保に向けて何らかの提言ができればと考えております。



写真1：羊山公園の桜（秩父市）の芝桜



写真2：日比谷公園の「首掛け銀杏」

その他の博士の設計した主な公園等

- ・大沼公園（北海道七飯町）
- ・鶴ヶ城公園（会津若松市）
- ・偕楽園（水戸市）
- ・大宮公園（さいたま市）
- ・清水公園（野田市）
- ・卯辰山公園（金沢市）
- ・臥竜公園（須坂市）
- ・懐古園（小諸市）
- ・舞鶴城公園（甲府市）
- ・鶴舞/中村公園（名古屋市）
- ・住吉公園（大阪市）
- ・浜寺公園（堺市）
- ・箕面公園（箕面市）
- ・六甲山系造林計画（神戸市）
- ・奈良公園（奈良市）
- ・宮島公園（廿日市市）
- ・大濠/東/西公園（福岡市）
- ・帆柱公園（北九州市）

蛇足のエッセイ「最近憂いていること」

家庭を大切にする教義のはずの宗教を装った反社会的な靈感商法や正体を隠して組織に勧誘する詐欺グループ(?)が、実は多額の献金で家庭を崩壊に導いています。我が国を屈辱している言動の見られる隣国の団体に、何で国民の生命と財産を守るはずの多くの国会議員が国民の財産の棄損に手を貸し政治家が摺り寄るのでしょうか?彼らには日本国としての矜持はないのでしょうか?嘆かわしい限りです。現総理の独断に近い形で国民の過半数の方が疑問に感じている「国葬」が強行されました。国民の声を「聞く耳を持つ」というスローガンは早くも看板倒れであることが露呈されたようです。現総理は弔問外交で内閣の支持率を回復させたかったのでしょうか。70年間の長きにわたり即位し、高潔な行動で多くの国民から愛されたエリザベス女王に対して、8年間の間に拉致・北方領土問題が1mmたりとも進まなかったのが現実です。元総理と息の合ったお友達であったフェイクまみれのトランプ元大統領や、山口の高級旅館でお互いが希望溢れる未来を見つめあった「ウラジーミル」大統領も招待すべきでなかったでしょうか?まさか何の罪もない一般市民を殺戮する誠に凄惨なウクライナへの武力侵攻という暴挙を見つめていたわけでは不会いでしょうか。

我々技術士の重要な責務の一つは地球環境やエネルギー問題という人類の将来に係わる重要な課題に対して、科学的根拠や知見をもって政治に積極的に提案することではないでしょうか?これらの問題は最終的には政治の決断が求められます。従って技術士は「非政治世界」とどまっていたら、社会の健全な発展に貢献することができません。今後は国会内に組織されている「与党技術士議員連盟」との連携もあるいは必要になってくるかもしれません。幸いにこの事務局長を務める参議院議員との個人的なパイプもごさいます。ちなみに私が常任幹事を務めています学会の年度別同窓会の「白門48会」支部が、来年卒業50周年を迎えるにあたり、記念誌に載せる座談会を企画しておりその担当を仰せつかっております。参加者はいずれも私の同期生でいらっしゃる司会の酒井前総長と自民党総務会長の遠藤利明衆議院議員、皆様おなじみの政治コメンテーターの田崎史郎氏、株式会社ノジマ社長の野島廣司氏の4名を予定しております。

先行きの全く予測できない混沌とした社会情勢のなかで、私どもは技術士として情勢の変化を踏まえた地道で堅実な社会貢献がますます望まれているのではないのでしょうか。

ニュースレターへのご意見、ご感想をお待ちしています。 ⇒ toiawase@chuo-u-pej.org
2022年10月号 中大技術士会 広報部会 発行